



入選

東武東上線ときわ台駅駅舎改修

東武鉄道(株)／(株)オー・エヌ・オー大野設計／東武谷内田建設(株)
W 造 地上1階／延べ160.82㎡／平成29年3月22日～平成30
年5月30日

■はじめに

東武東上線ときわ台駅は、東京都板橋区に位置し、池袋駅から各駅停車で5つ目の駅である。

1935（昭和10）年に「武蔵常盤駅」として開業し、青瓦の屋根と大谷石の外壁が特徴的な小規模木造駅舎は、駅前ロータリーから放射状に街区を形成し、クルドサックやロードベイなどで有名な、当社が翌年より分譲した「田園都市」「常盤台住宅地」のシンボルとして親しまれてきた。1951（昭和26）年に現在の「ときわ台駅」に改称し、以後幾多の改修を施してきており、このたび開業当時の姿に再現改修したものである。

■都内に残る特色ある木造駅舎の価値を伝えるために

ときわ台駅は、地元や多方面よりそのディテールをはじめ、昭和初期の小規模な木造駅舎としての価値を高く評価されてきた。改築ではなく改修の手法に関係者との粘り強い協議で実現し、また、構内店舗の再配置計画により、改札を当初の位置に戻すことが可能となったことから、一気に開業当時の姿を再現する機運が高まる。破風板や建具まわりの配色は塗膜分析により解析し当時の色を復元。駅舎全体に幾何学模様の装飾、パターン貼りの大谷石壁面や青色瓦、そして当時の色味を随所に採用し、往年の姿を再現している。

■地域を紹介するギャラリースペースを設置

従来からの駅舎に隣接し増築した駅のバックヤードおよび旅客トイレ棟の駅前広場側大谷石外壁面に、開業当時の駅名にちなみ「武蔵常盤小径」と題した11面にわたるパネルを展示したギャラリースペースを開設。これは、今回の改修にあたり収集した常盤台住宅地の貴重な写真などを紹介しており、資料提供いただいた板橋区教育委員会をはじめとした協力により実現している。

■おわりに

このたび、栄えある協会賞作品部門「入選」の栄誉を賜り、関係者一同心より感謝いたしております。今後も鉄道建築の発展に寄与し、利便性の高い感動を提供できる駅舎づくりに邁進してまいります。あらためて本事業にご尽力頂きました皆さまに厚く御礼申し上げます。

よみがえったときわ台駅が、これからも地域を見守り、お客さまに末永く愛されるよう願いを込め、忠実に復元した改札正面駅名票が皆さまをお待ちしております。

<東武鉄道株式会社 鉄道事業本部 施設部 建築土木課>